

文部科学省委託事業
総合的な教師力向上のための調査研究事業
(教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発)

長期学校インターンシップの効果 と課題に関する調査研究

報 告 書

平成28年3月

岡山大学教育学部
岡山大学教師教育開発センター

目次

1. 調査研究の概要	1
1.1. 課題認識	1
1.2. 現状の取組	2
1.3. 調査研究の目的	4
1.4. 調査研究の具体的な内容・取組方法	4
1.5. 調査研究の実施計画(当初案)	5
1.6. 調査研究の実施体制	6
2. 岡山大学の長期学校インターンシップ	7
2.1. 平成27年度 教職実践インターンシップ・教育実習打合せ会	9
2.2. 平成27年度 教職実践インターンシップ訪問指導	21
2.3. 平成27年度 教職実践インターンシップ反省会	22
3. アンケート調査の集計・分析	31
3.1. 平成27年度 学校教員を対象とするアンケート	31
3.2. 平成27年度 学生を対象とするアンケート	36
3.3. アンケート結果からみたインターンシップの成果と課題	51
4. 訪問調査のまとめ	53
4.1. 福岡教育大学	53
4.2. 福井大学	56
4.3. 東京学芸大学	59
5. まとめ	63
6. 参考:平成25・26年度の学生用アンケートの分析・考察	65

1. 調査研究の概要

教育学研究科と教師教育開発センターは、岡山県教育委員会及び岡山市教育委員会との連携により、平成27年度文部科学省初等中等教育局「総合的な教師力向上のための調査研究事業（教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発）」を受託した。受託テーマは、「長期学校インターンシップの効果と課題に関する調査研究」である。

教員養成における実践的指導力の育成には、教育現場での体験的授業科目が必須であるといえる。基本的に学校の求めに応じる形式のボランティアや集中型の教育実習ではなく、養成段階の学生と教育実践の場である学校がともに課題を解決することができ、その課題解決の道筋を大学に持ち帰り、理論と実践の往還を通して活動を評価・改善できる分散型の長期インターンシップ制度が最適であると考えられる。本調査研究事業では、「長期学校インターンシップ（岡山大学での授業名：教職実践インターンシップ）」について、その効果と課題を調査研究することにより、実践的指導力の育成に資する「長期学校インターンシップ」の改善に向けた検討資料を得ることで、「長期学校インターンシップ」を含む教員養成カリキュラムをより実践力のあるものに改善することを目的とした。さらに、本調査研究の成果は、学校・教育委員会が教員養成に直接的に関わる、新たな「大学と学校・教育委員会の連携」について全国の教員養成に関わる大学への提案となることを目的とした。

具体的調査内容は、インターンシップ協力校への訪問調査及びアンケート調査、インターンシップの履修学生へのアンケート調査、長期的に子どもに関わる特徴的な取組みを行っている大学への訪問調査である。インターンシップ協力校及び履修学生を対象とする調査は、実施時期や期間の妥当性・受け入れ人数の妥当性・インターンシップでの活動内容・実践的指導力への影響・インターンシップ全般への意見等について実施した。また、長期的に子どもに関わることで実践的指導力の養成を目指すカリキュラムを有する、福岡教育大学、福井大学、東京学芸大学を対象として訪問調査を実施した。

1.1. 課題認識

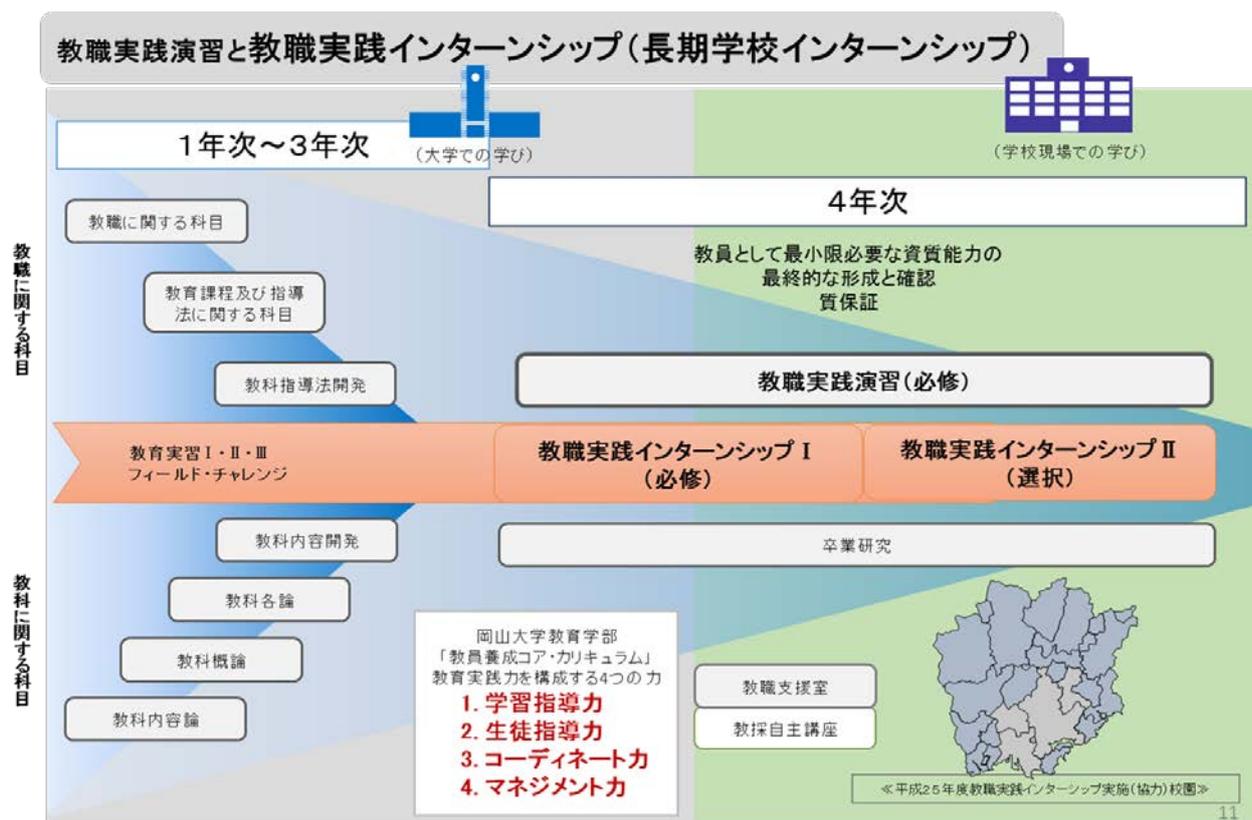
中央教育審議会の「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（平成24年8月28日答申）」では、新たな学びを支える教員を養成するため、取り組むべき課題として「実践的指導力を育成するためには、教科や教職についての基礎・基本を踏まえた理論と実践の往還による教員養成の高度化が必要である。」「他方、初任者が実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力など教員としての基礎的な力を十分に身に付けていないことなどが指摘されている。こうしたことから、教員養成段階において、教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を育成するなど何らかの対応が求められている。」としている。これらを実現するための当面の改善方策の具体例としては、「学校ボランティアや学校支援地域本部、児童館等での活動など、教育実習以外にも一定期間学校現場等での体験機会の充実を図る。その際、特にいじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題への対応について理解を深める活動を重点的に行うことも考えられる。また、教員を強く志望する者に対し、学校への長期インターンシップなどの実施も考えられる。」としている。

さらに、平成26年7月29日付けで文部科学大臣は、「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方について」を中央教育審議会に諮問している。その内容として「主体的・協働的に学ぶ授業を展開できる指導力、教科等横断的な視野を持って指導できる力、小中一貫教育など学校種を超えて指導できる力や小学校における教科指導の専門性などを身に付けさせる観点から、教育職員免許法に規定されている教員養成課程で学ぶべき内容や課程認定の在り方も含め教員免許制度をどのように見直していくべきか。その際、特に学校現場を経験する機会の充実も含め、どのような方策が考えられるか。」があげられている。

これらの答申や諮問内容からも明らかなように、教員養成における実践的指導力の育成には、教育現場

での体験的授業科目が必須であるといえる。しかしながら、学校を取り巻く社会的状況の急激な変化のなか、学習指導力の獲得が中心課題とする現行の教育実習だけでは、いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題への対応を含む、多種（児童・生徒への対応、保護者への対応、地域への対応、教育環境への対応等）・多様（学習指導、生活指導、進路指導等）な教育課題の全てについて十分な経験を積むことは難しい。また、「教科や教職についての基礎・基本を踏まえた理論と実践の往還による教員養成の高度化」の実現のためには、学校現場と大学を長期的・定期的に行き来する制度が望ましく、しかも両者にとってメリットがあることが継続的連携のための条件となると考える。つまり、基本的に学校の求めに応じる形式のボランティアや集中型の教育実習ではなく、養成段階の学生と教育実践の場である学校がともに課題を解決することができ、その課題解決の道筋を大学に持ち帰り、理論と実践の往還を通して活動を評価・改善できる分散型の長期インターンシップ制度が最適であると考ええる。

これまで、教員養成は大学が担い、教育委員会や学校は教育実習以外で教員養成への直接的な関わりがほとんど無かったといえる。本調査研究で、教育委員会や学校が直接的に教員養成段階の学生に関わる「長期学校インターンシップ」を、教員養成カリキュラムに位置付けることの効果や課題を明らかにすることは、学校現場で起こっている様々な教育課題に対応できる教師としての資質能力を具体化するとともに、教員養成の段階から教師としての資質能力を身に付けるために大学と教育委員会や学校が連携・協力する体制が構築できるものである。学校のニーズに沿ったカリキュラム開発を共に進めることは、新たな「大学と学校・教育委員会の連携」のモデルとして教員養成課程を有する全国の大学の参考になると考える。



1.2. 現状の取組

岡山大学では、教師に求められる教育実践力を、1.学習指導力、2.生徒指導力、3.コーディネート力、4.マネジメント力の4つに分類し、これらをバランスよく身に付けた、反省的で創造的な教員を本学のめざす教師像として教員養成教育を実施している。実践的指導力を有する教員養成を実現する「教員養成コア・カリキュラム」は、教育実習や学校ボランティア(岡山大学での授業名:フィールドチャレンジ)等の体験的授業

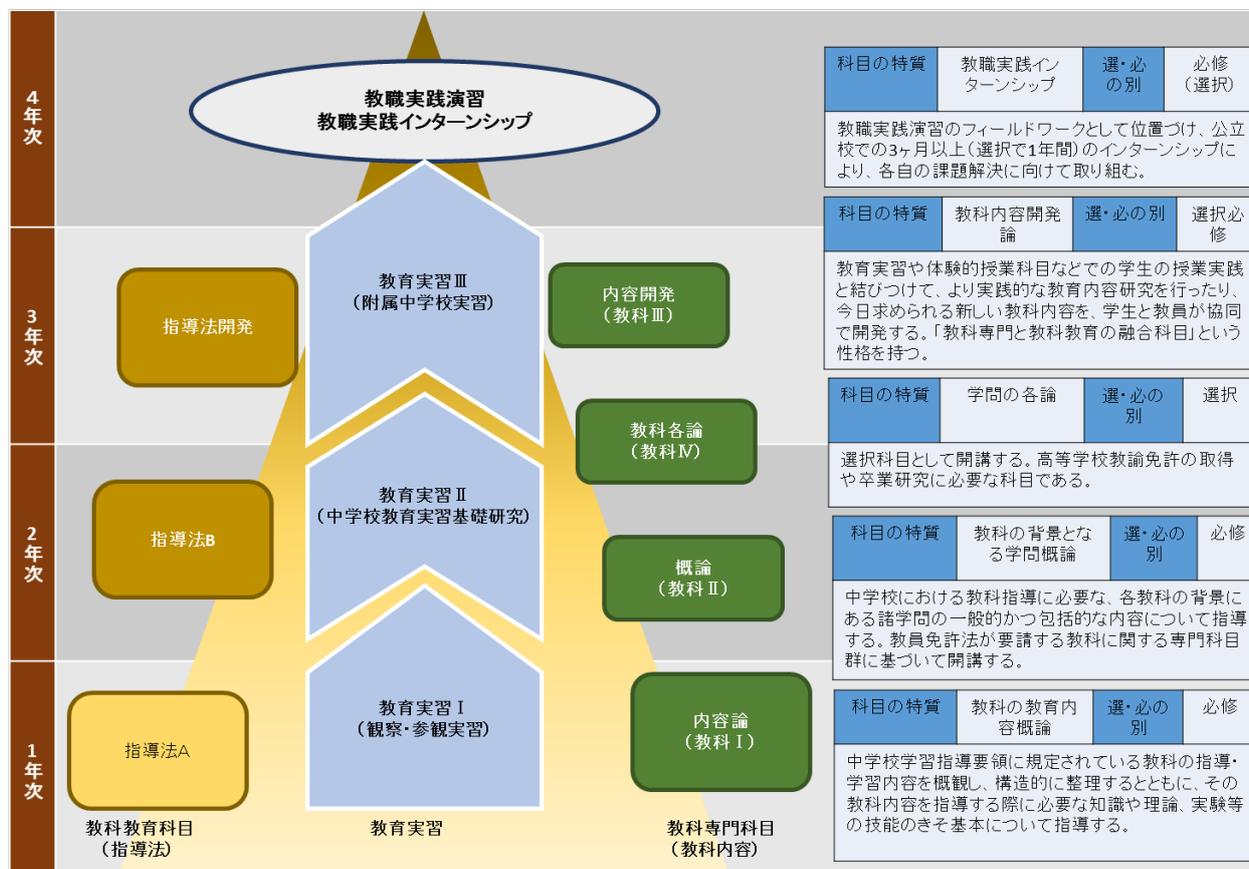
科目を軸(コア)としており、併せて、平成25年度からは長期間にわたる教職実践インターンシップ(公立学校園での3ヶ月以上の実習、週に半日～1日)を教育学部で必修化している。

教職実践インターンシップは、「教職実践演習」の趣旨である「教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認」に基づき、教育実践力を構成する4つの力の形成状況を確認することを目的としている。苦手分野の克服及び得意分野の伸張を図るため、大学で実施される「教職実践演習」と関連させながら、学校現場でのフィールドワークとして行われる。岡山県内の幼稚2園、小学校16校、中学校10校、特別支援学校2校の計30校園において4年次に実施しており、学生は3年次までの教育実習を含む学びのなかで持つ自己課題を明確にしたうえで長期のインターンシップに臨む体制としている。短期的、即時的変化だけでなく、ほぼ学校等の1学期の期間における子どもや学校の変化を体験することになる。学校現場の教育活動に主体的に長期的にかかわる中で、自己課題をさらに確認したり、課題解決の方法を見出したりする取り組みを通して、実践的指導力の獲得を目的としている。

平成25年度に実施した教職実践インターンシップについては、受け入れ学校園から「教育全般に関する補助的役割となる」、「児童・生徒に長期間かかわることで子どもに好影響あった」との意見を多く得ている。しかし、実際に受け入れて指導した教員からは「教育実習に比べて長期インターンシップが実習生にとって効果があるのかわからない」、「長期インターンシップによって、実習生は実践的力を向上させ、学校は教育の補助的役割を担ってもらえるとといったWin-Winの関係をさらに築くことが必要」との意見もあった。

本調査研究により、実践的指導力の養成に資する長期学校インターンシップの効果と課題を明らかにすることは、教員養成教育と学校教育現場の両者にとってより有意義な改善に資することができ、さらに、学校の現状やニーズに沿ったカリキュラム開発を共に進めることにつながると思われる。

岡山大学教育学部における教員養成コア・カリキュラム



1.3. 調査研究の目的

本調査研究の目的は、長期学校インターンシップの効果と課題を明らかにし、教育課題に対応するための教員養成カリキュラムを、教育委員会や学校と連携して改善・開発することである。調査研究の対象とする「長期学校インターンシップ(岡山大学での授業名:教職実践インターンシップ)」は、喫緊の課題となっている「教員に求められる教育実践力の育成」を図るために、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会及び学校園との連携のもと、教育現場の課題解決に資する活動のなかで自己の教育実践力向上の機会を学生に提供するものであり、教育的意義は大きい。昨年度(平成25年度)から実施したインターンシップについて、その効果と課題を調査研究することにより、実践的指導力の育成に資する「長期学校インターンシップ」の改善に向けた検討資料を得ることで、「長期学校インターンシップ」を含む教員養成カリキュラムをより実践力のあるものに改善することを目的とする。

さらに、本調査研究の成果は、学校・教育委員会が教員養成に直接的に関わる、新たな「大学と学校・教育委員会の連携」について全国の教員養成に関わる大学への提案となることを目的とする。先ず、毎年定期的に開催している岡山県・岡山市教育委員会との合同連携協力会議で、「長期学校インターンシップ」の構築が大学と学校・教育委員会の連携の大きな成果であることを確認し、この成果を毎年作成している「連携協力事業研究報告書」の中に取りまとめ報告するとともに、次に、全国の教員養成系大学・学部等が主催する研究発表会等で、本学と岡山県・岡山市教育委員会及び学校が連携して、本調査研究の成果を共同発表し普及を図る。

1.4. 調査研究の具体的な内容・取組方法

平成25年度から教育学部の全学生の必修科目として、学校現場の教育課題を直接知り、自己の課題を解決する機会として実施している「長期学校インターンシップ(岡山大学での授業名:教職実践インターンシップ)」について、教員養成段階にある学生にとっての意義や効果を明らかにした上で、教員養成期の全般を通じた教員養成カリキュラムへの位置付けや課題についての検討資料を得るため、以下のような調査研究を実施する。

・平成26年度に実施した教職実践インターンシップの協力校への訪問調査及びアンケート調査

平成26年度に実施した教職実践インターンシップの協力校は、岡山県内の幼稚園2園、小学校16校、中学校10校、特別支援学校2校の計30校園である。これらの協力校園に訪問調査及びアンケート調査を実施する。調査の具体的な内容としては、受け入れ時期・期間、受け入れ人数、活動内容についての評価と共に、インターンシップ全般への意見などについて調査を実施する。附属学校園での教育実習を履修済みの学生ではあるが、公立学校園での教育課題については十分に把握していないと考えられることから、受け入れることについての忌憚のない意見についても問うこととする。

・平成27年度に実施する教職実践インターンシップの履修学生へのアンケート調査

・平成27年度に実施する教職実践インターンシップの協力校への訪問調査及びアンケート調査

・教師教育学会及び教育実践研究関連センター協議会等における調査・資料収集

長期学校インターンシップや教育課題に対応するための教員養成カリキュラムに関連が深い、教師教育学会、国立大学教育実践研究関連センター協議会、日本教育大学協会全国教育実習研究部門研究協議会において、調査・資料収集を行う。

・学校・教育委員会との意見交換

教職実践インターンシップは、教育学部の全学生の必修科目としている。そのため、就職に関する多様な志望を有する学生が協力学校園での活動を実施する。学校インターンシップを長期に実施することの教員養成カリキュラムとして意義について教育委員会や学校と意見交換すること、さらに、全学生の必修とすること等の諸課題について意見交換・確認が必要となる。

1.5. 調査研究の実施計画（当初案）

調査研究の時期と内容	
	各月冒頭の（ ）は、教職実践インターンシップ実施にかかわる事項
4月	(27年度教職実践インターンシップ:4年次生「事前指導」) ・平成26年度に実施した教職実践インターンシップの協力校への訪問調査及びアンケート調査の分析とまとめ
5月	(27年度教職実践インターンシップ:活動開始(～7月、一部は9月まで)) ・27年度教職実践インターンシップ協議会・打合せ(教育委員会、全協力校園) ・27年度全協力校園への事前及び実施中の訪問調査
6月	・27年度全協力校園への事前及び実施中の訪問調査の分析とまとめ
7月	(27年度教職実践インターンシップ:終了(一部は9月まで)) ・岡山大学大学院教育学研究科、岡山大学教育学部、岡山大学教師教育開発センターと岡山県教育委員会との連携協力会議(専門部会)を開催し、実践的指導力の向上を目指した教員養成、教員の資質向上及び学校現場での諸課題解決に資する連携のあり方について検討を行う。この中で「長期学校インターンシップ(岡山大学での授業名:教職実践インターンシップ)」に関する連携のあり方について岡山県教育委員会から意見聴取を行う。また、協力校園及び学生を対象とする調査内容について協議する。
8月	・長期学校インターンシップや長期学校ボランティアを教員養成カリキュラムとして位置付けている大学への訪問調査(東京学芸大学、福岡教育大学、新潟大学:8月～10月)
9月	(27年度教職実践インターンシップ:終了) ・全協力校園への訪問調査、アンケート調査実施 ・日本教師教育学会(於:信州大学、長野市)における調査と資料収集 ・国立大学教育実践研究関連センター協議会(於:電気通信大学、東京都調布市)における調査と資料収集
10月	・岡山大学大学院教育学研究科、岡山大学教育学部、岡山大学教師教育開発センターと岡山県・岡山市教育委員会との合同連携協力会議を開催し、実践的指導力の向上を目指した教員養成、教員の資質向上及び学校現場での諸課題解決に資する連携のあり方について検討を行う。この中で長期学校インターンシップの教員養成カリキュラムへの位置付けに関して、今後の大学と学校・教育委員会との連携について具体的に検討する。 ・全協力校園への訪問調査、アンケート調査の集計 ・日本教育大学協会全国教育実習研究部門研究協議会(於:埼玉大学、さいたま市)における調査と資料収集
11月	・全協力校園への訪問調査、アンケート調査の分析とまとめ(平成28年1月まで)
12月	(28年度教職実践インターンシップ:説明会(学生に対し希望地域に関する調査)) ・27年度教職実践インターンシップ反省会(教育委員会、全協力校園)において、学校インターンシップを長期に実施することの教員養成カリキュラムとして意義について教育委員会や学校と意見交換する。さらに、全学生の必修とすること等の諸課題について意見交換・確認する。 ・学生へのアンケート調査及び実施分析とまとめ(平成28年1月まで)
1月	(28年度教職実践インターンシップ:配当協力校園の決定)
2月	(28年度教職実践インターンシップ:履修者名簿、履修調書を教育委員会と学校へ送付)
3月	・報告書作成

1.6. 調査研究の実施体制

所属部署・職名	氏名	役割分担
岡山大学・学長	森田 潔	事業代表者
教育学部・学部長 教師教育開発センター・センター長	高塚 成信	事業実施責任者
教育学部・副学部長	仲矢 明孝	事業実施副責任者
教師教育開発センター・副センター長	加賀 勝	事業実施副責任者
教師教育開発センター・教授	高旗 浩志	事業実施担当者
教師教育開発センター・講師	三島 知剛	事業実施担当者
教師教育開発センター・教授(特任)	近藤 弘行	事業実施担当者
教育学部・教授	李 璟媛	事業実施担当者
教育学部・教授	入江 隆	事業実施担当者
教師教育開発センター・准教授	稲田 修一	事業実施担当者
教師教育開発センター・助教	後藤 大輔	事業実施担当者
教育学系事務部・事務長	長砂 毅	事務担当責任者
教育学系事務部・教職支援グループ主査	藤井 俊則	事務連絡担当者
教育学系事務部・教務学生グループ主査	山本 準	事務担当者
教育学系事務部・会計グループ主査	山田 浩史	事務担当者
教育学系事務部・教職支援グループ主任	佐々木 雅徳	事務担当者
教育学系事務部・教務グループ	松下 友洋	事務担当者

2. 岡山大学の長期学校インターンシップ

岡山大学における長期学校インターンシップ(授業名:教職実践インターンシップ)は、「教職実践演習」設定の趣旨「教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認」に基づき、教育実践力を構成する4つの力(学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力)の形成状況を確認した上で、苦手克服及び得意分野の伸長を図るために大学で実施される「教職実践演習」と関連させながら、学校現場でのフィールドワークとして、平成25年度から実施している。

このようなことから、教職実践インターンシップでは、「教育実践力を構成する4つの力をバランスよく形成しているかどうかを最終確認し、実践的指導力を身に付ける」ことを目指し、教育現場での教育活動全般に取り組む中で、自己課題の確認、及び課題解決の方法等について学ぶこととしている。教職実践インターンシップの対象学生、期間・実施校園、内容等は次の通りである。

対象:

- ・教育学部4年生全員
(学校教育教員養成課程:小学校・中学校・特別支援教育・幼児教育、養護教諭養成課程)

期間・実施校園等:

- ・教職実践インターンシップⅠ:前期、随時開講、必修1単位(40時間以上)
第1回目は終日、以降、半日(約4時間)を週1回程度、合計8回実施する。実施する曜日は、協力校園の事情及び学生個々の講義履修状況等に基づいて決定する。
岡山市の幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校、倉敷市・総社市・赤磐市の小学校・中学校において実施する。
- ・教職実践インターンシップⅡ:後期、随時開講、選択1単位(40時間以上)
週1回程度、1回の時間は終日、1/2日、1/4日程度とし、長期間実施する。実施校園は、原則として、インターンシップⅠの協力校園とする。なお、他の学校園で行う場合はボランティア活動として実施する。

内容:

- ・自己課題に関わる内容を中心とした教育活動全般(実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等)である。実地授業をする場合、共同立案授業も可とする。なお、児童生徒理解に基づいたより実践的な学級経営、生徒指導、授業の在り方を学ぶため、学級配当を原則とする。
- ・毎回退出時、出勤簿(名札裏面)に日時及び時間数を記入し、協力校園教員に押印して頂く。
- ・帰宅後、体験内容及び省察等を日誌に記入する。

実施(協力)校園:

- ※人数・校園数は目安を示す
- <小学校(約140人)・・・16校>
- ・岡山市10校(115人)
御野小学校・牧石小学校・津島小学校・伊島小学校・宇野小学校・三勲小学校・清輝小学校・岡南小学校・鹿田小学校・大元小学校
- ・倉敷市3校(14人)
西阿知小学校・庄小学校・帯江小学校

- ・総社市1校(5人)
 総社中央小学校
- ・赤磐市2校(6人)
 <中学校(80人)・・・10校>
- ・岡山市5校(68人)
 岡北中学校・京山中学校・操山中学校・岡輝中学校・桑田中学校
- ・倉敷市3校(6人)
 倉敷第一中学校・庄中学校・多津美中学校
- ・総社市1校(3人)
 総社西中学校
- ・赤磐市1校(3人)
 <幼稚園(15人)・・・2園(岡山市)>
 伊島幼稚園・御野幼稚園
- <特別支援学校(15人)・・・2校>
 岡山県立岡山支援学校・岡山県立岡山東支援学校
- <養護教諭養成課程(30人)・・・10校>
 上述した岡山市小学校10校

実施までの手続き:

- 1) 教職実践インターンシップ協力校園説明会(各教育委員会・協力校園)12月上旬
- 2) 3年次生全員、教職実践インターンシップ希望調書(希望地域等:12月末)及び履修調書(自己課題含:1月末)を提出
- 3) 学部において学生の所属講座・人数・希望地域等を考慮して各学校園配当を行い、学校園配当名簿を岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・倉敷市教育委員会・総社市教育委員会・赤磐市教育委員会、学校配当名簿及び各学生の履修調書を協力校園に提出し、学級配当を依頼する。(2月中旬)。
※学校園配当は、講座単位を基本とし、小・中学校コースの場合、原則として1学校園に2講座程度とする。なお、倉敷市、総社市、赤磐市については学生の希望に基づいた編成を行う。
- 4) 協力校園に、学級配当案を学部へ送付していただき、学生に通知する。(4月8日頃)
- 5) 協力校園に各学生の調書(活動可能曜日・時間帯・活動不可の時期等)を送付し、協力校園に各学生の受け入れ曜日・時間等を決定し、学部へ連絡して頂く。(4月中旬)
※シラバス提示以降に体験可能な曜日・時間等が確定
- 6) 各学生の計画書(活動の日時等)を協力校園へ提出し、確認して頂く。(4月下旬)
- 7) 各委員会及び協力校園との打ち合わせ会(予定)(5月上旬)

評価:

協力学校園において活動の実施確認をした出勤簿に基づき、学部で合否判定する。

留意事項:

- 1) 各協力校園の窓口として、大学担当教員(1名)を決めておく。各協力校園からの連絡は教務学生係に行っていたり、その内容を教務学生係から担当教員に伝え、必要に応じて学生指導教員に伝えるなどして対応する。
- 2) 半日以上体験する場合、または休日(土日)・宿泊等への参加の場合については、宿泊等は学校行事(教育活動)であり、学生が希望する場合には参加し、教職実践インターンシップとして扱う。

- 3) 実地授業を行う際には、可能な範囲で、情報提供や助言等を行って頂く。
- 4) 日誌は、各学生が用意したノートを使用し、教職実践演習及び指導教員との懇談等の際に活用する。日誌の最初にはポートフォリオに基づいた自己課題を記入しておく。毎回、活動前に、a. 今回の目標（確かめたいこと等）、活動後、b. 主な体験内容、c. 省察を記入する。日誌は、毎回、学校園に持参し、学校園の教員に求められた場合には提出する。
- 5) 名札（出勤カード）は、大学で用意したものを使用する。
- 6) 消耗品（印刷用紙）を履修者数に応じて実施開始1週間前頃に協力校園に送付する。なお、各学校園の希望用紙サイズを事前に把握しておく。

協力校園に依頼する内容：

＜実施前＞

- 1) 2月中旬に学部から送付される配当学生名簿及び履修調書に基づいて学級配当を行い、4月上旬に学部に提出して頂く。
- 2) 学部から送付される学生個々の調書（活動可能曜日・時間帯・活動不可の時期等）に基づき、個々の学生の受け入れ曜日・時間等を決定し、学部に連絡して頂く。（4月中旬）
- 3) 学部から送付される各協力校園における学生の実施計画の内容等を確認し、問題点等がある場合には、教務学生係に連絡して頂く。（4月下旬）
- 4) 教職実践インターンシップ打合せ 5月

＜実施中＞

- 1) 第1回（5月中旬）オリエンテーション・学校概要説明・配当学級における参画・今後の計画等に関する説明・留意事項等及び出勤簿（カード）への押印を行って頂く。
- 2) 第2回～9回（半日）
当日の活動に関する学生への指示及び学生の質問等への対応（必要に応じて）、学生の活動確認のための出勤簿への押印をして頂く（担当者）。

＜実施後＞

- 1) 教職実践インターンシップⅡを希望する学生に対する対応（実施の可否・実施計画の相談等）をして頂く。

2.1. 平成27年度 教職実践インターンシップ・教育実習打合せ会

教職実践インターンシップを本格実施した平成25年度から、協力校の学校管理職と教育委員会を対象とした打合せ会を5月初旬に行っている。教職実践インターンシップ協力校を管轄する教育委員会は、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、総社市教育委員会、赤磐市教育委員会である。平成27年度の協力校は、岡山市立小学校10校、倉敷市立小学校3校、総社市立小学校1校、赤磐市立小学校2校、岡山市立中学校5校、倉敷市立中学校3校、総社市立小学校1校、赤磐市立小学校1校、岡山市立幼稚園2園、岡山県立特別支援学校2校である。すべての教育委員会及び学校から出席いただき、次ページ以降の資料を用いて打合せ会を実施している。

打合せ会では、教職実践インターンシップの時期と期間、インターンシップ生の教育実習等の既有している経験、成績評価の方法等を確認している。さらに、インターンシップ生を対象として4月下旬に実施している教職実践インターンシップ事前指導の内容や、教職実践演習との関連を含めた教職実践インターンシップの目的等について資料を配布し、理解を得るための説明を実施している。また、各協力校園のインターンシップ生の所属する講座教員が担当教員となり、協力校園との連携を円滑に進める体制であることを説明している。

本年度の打合せ会で配布された資料等の一部を以下に示す。

打 合 せ 会 次 第

日 時 平成27年5月7日(木) 10:00～11:30
場 所 岡山大学教育学部 本館4階 第一会議室
(岡山市北区津島中3丁目1-1)

1. 開 会

2. 挨拶

高 塚 成 信	岡山大学教育学部長
鍵 本 芳 明	岡山県教育庁教職員課長
天 野 和 弘	岡山市教育委員会審議監

3. 出席者紹介

4. 協議事項

(1) 平成27年度教職実践インターンシップ・教育実習について

(2) その他

5. そ の 他

6. 挨拶

仲 矢 明 孝	岡山大学教育学部副学部長
---------	--------------

7. 閉 会

平成27年度 岡山大学教職実践インターンシップ・教育実習打合せ会
出席者名簿

校種等	職名	出席者氏名
岡山県教育庁	岡山県教育庁教職員課長	
岡山市教育委員会	岡山市教育委員会審議監	
倉敷市教育委員会	倉敷市教育委員会学事課長（代理）学事主任	
総社市教育委員会	総社市教育委員会学校教育課長（代理）主幹	
赤磐市教育委員会	赤磐市教育委員会学校教育課長（代理）主幹	
小学校 (教職実践インターンシップ)	岡山市立御野小学校長	
	岡山市立牧石小学校長（代理）教頭	
	岡山市立津島小学校長	
	岡山市立伊島小学校長（代理）教諭	
	岡山市立宇野小学校長（代理）副校長	
	岡山市立三勲小学校長	
	岡山市立清輝小学校長（代理）教頭	
	岡山市立岡南小学校長（代理）教頭	
	岡山市立鹿田小学校長	
	岡山市立大元小学校長	
	倉敷市立西阿知小学校長	
	倉敷市立庄小学校長	
	倉敷市立帯江小学校長（代理）指導教諭	
	総社市立総社中央小学校長（代理）教頭	
赤磐市立山陽小学校長（代理）教頭		
赤磐市立山陽西小学校長		
中学校 (教職実践インターンシップ)	岡山市立岡北中学校長	
	岡山市立京山中学校長	
	岡山市立操山中学校長	
	岡山市立岡輝中学校長	
	岡山市立桑田中学校長	
	倉敷市立倉敷第一中学校長	
	倉敷市立庄中学校長	
	倉敷市立多津美中学校長	
	総社市立総社西中学校長（代理）副校長	
	赤磐市立高陽中学校長（代理）教頭	
岡山市立桑田中学校 教務		
幼稚園 (教職実践インターンシップ)	岡山市立伊島幼稚園長	
	岡山市立御野幼稚園長	
特別支援学校 (教職実践インターンシップ)	岡山県立岡山支援学校長（代理）教諭	
	岡山県立岡山東支援学校長（代理）教頭	
教育実習 (保健)	岡山市立石井中学校長（代理）教頭	
	岡山市立御南中学校長（代理）教諭	
	倉敷市立福田南中学校長（代理）指導教諭	
岡山大学	教育学部 教育学部長	
	教育学部 副学部長	
	教育実地委員長	
	教職実践インターンシップ専門委員会委員長	
	教職実践インターンシップ専門委員会副委員長	

平成27年度 教職実践インターンシップ・教育実習打合せ会

日時：平成27年5月7日(木) 10:00～11:30

場所：岡山大学教育学部 本館4階 第一会議室

I. 教職実践インターンシップ・教育実習共通事項

1. 期間

①教職実践インターンシップ

第1回：5月11日(月)～5月15日(金)の1日(終日) (資料6参照)

第2回目以降：4時間以上を8回以上、6週以上、各自の計画に基づいて実施

②養護教諭養成課程 4年次教育実習(保健) (2週間)

5月25日(月)～6月5日(金) (資料8参照)

2. 協力校園

①教職実践インターンシップ

○小学校 (16校 166名)

- 岡山市 10校：御野小学校・牧石小学校・津島小学校・伊島小学校宇野小学校・清輝小学校・三勲小学校・岡南小学校・鹿田小学校・大元小学校
- 倉敷市 3校：西阿知小学校・庄小学校・帯江小学校
- 総社市 1校：総社中央小学校
- 赤磐市 2校：山陽小学校・山陽西小学校

○中学校 (10校 87名)

- 岡山市 5校：岡北中学校・京山中学校・操山中学校・岡輝中学校・桑田中学校
- 倉敷市 3校：倉敷第一中学校・庄中学校・多津美中学校
- 総社市 1校：総社西中学校
- 赤磐市 1校：高陽中学校

○幼稚園 (2園 15名)

- 岡山市 2園：伊島幼稚園・御野幼稚園

○特別支援学校 (2校 14名)

- 岡山市 2校：岡山県立岡山支援学校・岡山県立岡山東支援学校(肢体)

②養護教諭養成課程 4年次教育実習(保健)

○中学校 (3校 6名)

- 岡山市 2校：石井中学校、御南中学校
- 倉敷市 1校：福田南中学校

3. 教育実習生の既有経験

①学校教育教員養成課程 (資料12～15参照)

○1年次実習(教育学部附属学校園観察・参加)

○2年次実習(県立特別支援学校観察・参加)

○教育実習基礎研究(3年次前期)

○附属学校園での主免実習(3年次後期4週間)

○人権教育の講義

- ②養護教諭養成課程(資料16参照)
- 1年次実習(教育学部附属学校園観察・参加)
- 2年次実習(県立特別支援学校観察・参加)
- 教育実習基礎研究(3年次前期)、養護実習基礎研究(2年次後期)
- 附属学校園での養護実習(3年次前期)、
岡山市内の協力小学校での養護実習(3年次後期)
- 附属中学校での教育実習(保健)(3年次後期)
- 人権教育の講義

4. 成績評価

- ①教職実践インターンシップ
- 協力学校園において活動の実施確認をした出勤簿及び評価表に基づき、学部で修了判定を行います。
- ②養護教諭養成課程 4年次教育実習(保健)
- 教育実習評価表への記入(印は、私印で構いません。)
- 学部で総合的に合否によって評価します。

5. 消耗品（印刷用紙）の送付について

消耗品(印刷用紙)を履修者数に応じて後日送付します。
(用紙サイズ等の希望は、すでにお選びいただいた内容を送付します。)

II. 教育実習関係事項

1. 協力校実習の目的

- ①中学校教育の理解
- ②教諭としての基本的な実践的指導力を形成する。
- ③生徒への関わりを通して生徒観を深めるとともに、教職意欲を高める。

2. 実習の実際

(1)実習内容

- 学校理解 : 地域の特徴を生かした開かれた学校づくりの取り組み理解
- 生徒理解 : 生徒の実態を把握し、個に応じた教育の実際
- 学習指導 : 教壇授業の実際(2時間程度)
- 学級指導・生徒指導等への参加(※可能な範囲で)
- 特別活動 : 生徒会活動、部活動指導への参加
- 教師の仕事(教務・教材づくり等)への参加

(2)実習の方法

- 教科書 : 大日本図書、東京書籍の教科書を持っています。
- 教育実習記録 : 毎日点検をお願いします。
- 学年配当 : 本人の希望は履修調書に記載しています。
- 勤務 : 出勤時刻等をオリエンテーションでお知らせください。
- 控え室更衣室 : できれば用意してください。
- 服装等 : 気がかりな点があれば注意してください。
- 給食費 : 実費を徴収してください。

3. 実習校別オリエンテーション

- (1)目的:教育実習を円滑、効果的に実施するため
- (2)日時:「平成27年度 教育実習(保健) 協力校一覧」(資料10)参照
- (3)内容:貴校の教育、実習の心得、実習計画、勤務、通勤方法、携行品、配当学年・学級、担任紹介、教育実習要領

教職実践インターンシップ事前指導

資料2

平成27年4月22日(水)

- ・13:25～14:10 教職実践インターンシップ：担当教員との協力校園別事前指導
- ・14:30～15:00 教職実践インターンシップ専門委員会による全体事前指導（於：5202）
- ・15:00～16:00 岡山県教育庁義務教育課課長講話（於：5202）

1. 目的

教職実践インターンシップは、「教職実践演習」設定の趣旨「教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認」に基づき、教育実践力を構成する4つの力(学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力)の形成状況を確認し、苦手分野の克服及び得意分野の伸張を図る。大学で実施される「教職実践演習」と関連させながら、学校現場でのフィールドワークとして行われるものである。教育現場での教育活動全般に取り組む中で、自己課題の確認、及び課題解決の方法等について学ぶものである。

2. 期間

教職実践インターンシップⅠ(前期必修)：5月～7月（一部9月）

第1回：5月11日(月)～5月15日(金)の1日(終日)

第2回目以降：4時間以上を8回以上、6週以上

計40時間以上

教職実践インターンシップⅡ(後期選択)：10月～12月

4時間以上を週1回程度、同じ協力校園で長期間実施

3. 協力校園

教職実践インターンシップ

○小学校（16校 166名）

・岡山市10校：御野小学校・牧石小学校・津島小学校・伊島小学校・宇野小学校
清輝小学校・三勲小学校・岡南小学校・鹿田小学校・大元小学校

・倉敷市3校：西阿知小学校・庄小学校・帯江小学校

・総社市1校：総社中央小学校

・赤磐市2校：山陽小学校・山陽西小学校

○中学校（10校 87名）

・岡山市5校：岡北中学校・京山中学校・操山中学校・岡輝中学校・桑田中学校

・倉敷市3校：倉敷第一中学校・庄中学校・多津美中学校

・総社市1校：総社西中学校

・赤磐市1校：高陽中学校

○幼稚園（2園 15名）岡山市2園：伊島幼稚園・御野幼稚園

○特別支援学校（2校 14名）岡山市2校：県立岡山支援学校・県立岡山東支援学校(肢体)

4. 主な活動内容・実習内容

・自己課題に関わる内容を中心とした教育活動全般（実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等）である。実地授業をする場合、学生が授業計画や準備等に主体的に取り組み、協力校園教員の理解を得て実施するとともに、共同立案授業も可とする。なお、児童生徒理解に基づいたより実践的な学級経営、生徒指導、授業の在り方等を学ぶため、学級配当を原則とする。ただし、養護教諭養成課程の学生は、保健室等の関わりも可とする。

・毎回退出時、出勤簿に日時及び時間数を記入し、協力校園教員に押印していただく。

・帰宅後、体験内容及び感想等を日誌（7.参照）に記入する。

5. 協力校実習の心構え

(1)「教育委員会・協力校園の善意で実習させていただいている」という自覚をもつとともに、教育者としての使命感・熱情を持って臨むこと。

(2)教師らしい言動・態度

○学校種に応じた教師らしい服装

○勤務時間厳守

・勤務時間より早めの出勤

・初日は、実習生全員が時間を確認の上集合し、協力校に同時に出勤すること

・やむを得ない欠席、遅刻等は協力校及び教務学生係に必ず電話すること

・配当学生同士、連絡が取れるようにしておくこと

○礼儀：気持ちのよい挨拶を行う

○言葉遣い：教育者にふさわしい言葉を使う

- 守秘義務：職務上知り得た秘密を口外しない（個人情報管理責任）
 - ・ 教師としての品位：交通違反、交通事故等の問題が起きないように注意すること
 - 平等・機会均等の観点：一人ひとりの児童・生徒に平等に関わる
 - 人権・人間尊重の精神：子どもの人権を尊重して関わる
- (3) 積極的に実習する
- 課題意識を持って、積極的に様々な活動に取り組む。
 - 児童・生徒と関わる際には、可能な範囲で担任等から教育方針や子どもの実態等を聞き、「自分が担任になったつもり」で指導にあたること。
 - 児童・生徒と積極的に関わり、クラスの子どもの人間関係等の実態を把握する。
 - 疑問に思うこと、あるいは、わからないことは先生方から積極的に指導を受ける。
 - 校外学習等にも積極的に参加することが望ましい（ただし、受益者負担が原則）
6. 協力校実習の注意事項
- (1) 協力校の指導方針等を理解し、それに立脚した取り組みを行うこと。
 - (2) 禁止事項
 - ・ 子どもとの個人的な交際（活動中、活動終了後）
 - ・ 子どもや学校へのお礼の品物の贈呈等
 - ・ 附属と公立校の比較
 - ・ 個別の学校及び教師・生徒批判
 - (3) 名札（出勤簿）への押印の場合、時間等は協力校における担当教員の指示に従うこと。
名札は大学で用意したものを使用する。
 - (4) 教科書・指導書等、借りたものは必ず活動期間中に返却する。
 - (5) できるだけ指導していただいた先生方に、お礼状を出す。
7. 日誌
- 教職実践演習インターンシップについては、各学生が用意したノートを使用し、教職実践演習及び指導教員との懇談等の際に活用する。日誌の最初に自己課題を記入しておき、毎回、活動前に、
- 1) 今回の目標、活動後には、2) 主な活動内容、3) 省察を記入する。日誌は、毎回、協力校園に持参し、協力校園の教員に求められた場合には提出する。
8. 携行品・その他
- (1) 携行品
 - ・ 筆記用具、名札（出席簿）、上履き、運動靴、体操服、日誌（その他、学校が指定するもの）
 - (2) 挨拶（指示された場合）
- 学生代表（副代表）：開始日等
全 員：クラス担任、児童・生徒への挨拶
- (3) 通勤方法
 - ・ 自分で学校の所在地を確認し、通勤に利用できる公共交通機関を調べておくこと
 - ・ 自動車・バイクによる通勤厳禁
 - ・ 自転車は二重ロックを推奨
 - (4) 控え室が準備されている場合は、責任ある管理をすること
 - ・ 掃除当番を決めて掃除する
 - ・ 貴重品は、各自で責任をもって管理すること
 - (5) 出勤時刻
 - ・ 協力校園の指定する通り
 - (6) 集金
 - ・ 実習に伴う費用の集金については、各協力校と相談のこと
 - (7) 学生保険（学生教育研究災害傷害保険等）
 - ・ 未加入者は、教職実践インターンシップが始まるまでに、必ず加入のこと
- <注：インターンシップIに引き続き、インターンシップIIを希望する者は、9月初旬に「活動計画書」を教務学生係まで取りに行き、指導教員及び協力校の実習担当教員に相談の上、9月中旬頃までに記入し、教務学生係に提出のこと（正確な提出期限については、適宜掲示）。>

教職実践インターンシップで学生をご指導いただく先生方へ —教職実践インターンシップが目指すもの—

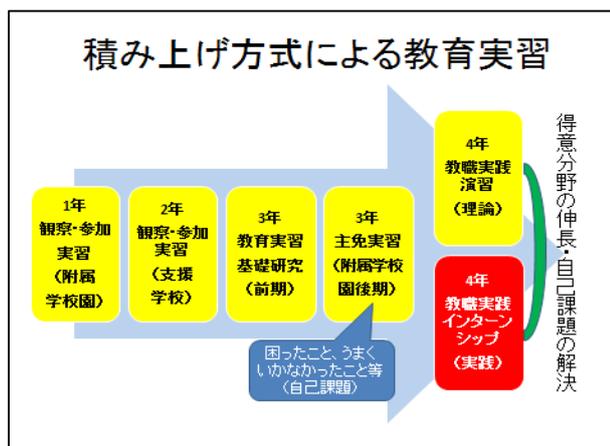
岡山大学教育学部
教職実践インターンシップ専門委員会

平成26年度教職実践インターンシップ I (4年次前期必修科目)では、教育学部の学生約280名が30の協力校園で、学校現場でしかできない貴重な経験をさせていただきました。大変ありがとうございました。その成果を検証し課題を把握するために、協力校園の先生方にアンケート調査をお願いしましたところ、「受け入れ校で先生方が何を指導してよいのか明確でない。」「インターンシップを行う学生が何をするのか理解していない。」というご指摘を多数いただきました。そこで、協力校園の先生方に教職実践インターンシップの趣旨を理解していただき、ご指導の参考にしていただけるよう資料を作成いたしました。

○教職実践インターンシップとは？

教職実践インターンシップは、次のようなねらいで実施しています。

- ①『自己課題』解決の方策を模索する。
- ②教員として働くイメージをふくらませる。
- ③教員として問われる資質を自覚する。



○「自己課題」とは？

岡山大学では、教職を目指す学生が実践的指導力を身につけていくことができるように、積み上げ方式による教育実習を各学年で実施しています。

教職実践インターンシップを行う学生は、3年次に附属学校園で4週間の教育実習（主免実習）を経験しています。

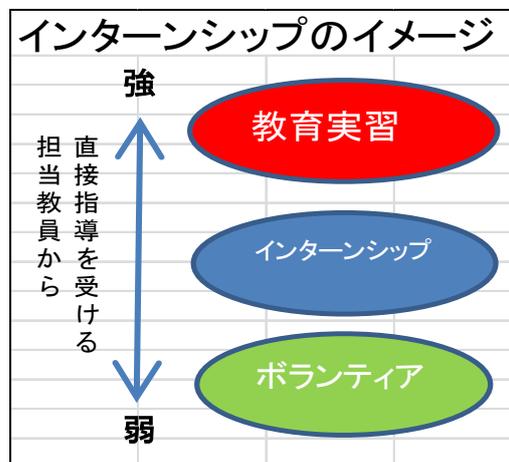
実習後のアンケート結果を見ると、学生たちは、この教育実習を通して「教員になりたい」という気持ちを高めると同時に、教職に就くための自己課題を見出していることが分かります。岡山大学では、自己目標と自己課題を明らかにできるよう、教育実践力を構成する4つの力（学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力）についての指標を示しており、自らの実践を振り返りながら自分が教職に就く上で解決すべきこととして見出した課題が「自己課題」になります。

○学生が得意分野を伸ばし、苦手分野を克服するために

大学では、学校現場において幼児・児童・生徒の指導や支援をされている先生方と協働することが学生にとって最も実践的な学びになり、先生方と一緒に行動したり一部の仕事を任されたりすることで学生が自信を深めていくことができると考えています。

教職実践インターンシップでは、自己課題に関わる内容を中心とした教育活動全般（実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等）を経験させていただければと思います。そのような機会を与えていただくことで、学生は得意分野を伸ばしたり、苦手分野を克服したりしながら、実践的指導力を高めていくことができます。

自己課題については、4つの指標と共にお渡しします。



■学生を受け入れの際、具体的にお願したいこと■

日々の多忙な業務の中、大変恐縮いたしますが、次の項目についてご理解いただき、学生への対応につきましてご協力をお願いいたします。

○出勤簿の押印（毎回：学生が所持している名札の裏面）

○活動の打ち合わせ（初回：日程の調整）

学生は5月～9月の期間で、それぞれの協力校園で活動することになっています。

1回の時間数や曜日を含め日程につきましては、活動開始日に、可能な範囲で打ち合わせをお願いいたします。*

「活動計画」：計40時間以上

第1回：5月11日(月)～5月15日(金)の1日（終日）

第2回目以降：4時間以上を8回以上、6週以上 各自の計画に基づいて実施

○不測の事態への対応

欠席しているのに連絡がない等の問題が生じた場合、お手数をおかけいたしますが、必ずご連絡くださいますようお願いいたします。

*学校行事や課外活動などそれぞれの協力校園の事情により、時間数や曜日の変更など、適宜調整してください。

以上、よろしくお願いたします。

なお、ご不明の点がございましたらお手数をおかけいたしますが、本学の担当教員もしくは本学部教務学生係（担当：浪花 ^{なにわ} 086-251-7600）までご連絡いただきますようよろしくお願いたします。

平成27年度教職実践演習 日程・予定

資料5

	年	月	日	曜	限	内容	形態	担当者
①	年	月	17日	水	5	オリエンテーション1:「教職実践演習」の位置づけ、意義の説明 2 「教育実践力」力量形成状況の確認(自己評価・相互評価)、自己教育課題の設定作業 3 「教職実践ポートフォリオ(Web版)」入力依頼 4 教職実践インターンシップ説明会・希望調査		小川(容) 李
②	27	4月	15日	水	5	1 オリエンテーション2:「教職実践演習」について再度説明 日程、クラス分け・担当教員、使用教室、評価方法等の説明、 ポートフォリオ入力再依頼、欠席日調査、クラス別での活動内容説明 2 「学習指導力」の観点について	全体	小川(容) 尾島
③	27	5月	8日	金*	5	1 「生徒指導力」の観点について 2 教職実践インターンシップへ向けた自己課題の検討と討議	全体 クラス	安藤(美) 講座
5/11(月)～ 5/15(金)								
④	27	5月	27日	水	5	1 「コーディネート力」の観点について 2 「マネジメント力」の観点について	全体	住野 金川
⑤	27	6月	3日	水	5	教職実践インターンシップに基づくグループ協議・発表 「学習指導力」I	クラス	講座
⑥	27	6月	24日	水	5	教職実践インターンシップに基づくグループ協議・発表 「学習指導力」II	クラス	講座
⑦	27	7月	8日	水	5	教職実践インターンシップに基づくグループ協議・発表 「生徒指導力」	クラス	担当校別 担当者
⑧	27	7月	22日	水	5	教職実践インターンシップに基づくグループ協議・発表 「コーディネート力」	クラス	担当校別 担当者
⑨		月	21日	水	5	「教師力について」(仮) (学校が求める教師力、教師を目指すにあたり心がけること、 教師の魅力とは など)	全体	岡山県教育庁 義務教育課 【 】
⑩		月	28日	水	5	個別課題研究討議I	クラス	講座
⑪		月	4日	水	5	教職実践インターンシップに基づくグループ協議・発表 「マネジメント力」	クラス	担当校別 担当者
⑫		月	25日	水	5	「教職初期のキャリア形成」(仮)		
⑬		月	2日	水	5	個別課題研究討議II		講座
⑭		月	9日	水	5	「教育実践力」力量形成状況の評価に関するワークショップ		
⑮	年	1月	13日	水	5		クラス	講座

* 4月22日(水)は、教職実践インターンシップ事前指導を行います。

* 5月8日は金曜日ですが、「水曜日の授業」をおこなう振替授業日です。

資料 7

平成 27 年度 教職実践インターンシップ担当教員名簿

担当学校園名	担当教員名	連絡先	講座
岡山市立清輝小学校			教育
倉敷市立帯江小学校			
岡山市立鹿田小学校			
倉敷市立西阿知小学校			心理
岡山市立宇野小学校			
岡山市立三勲小学校			国語
岡山市立御野小学校			
倉敷市立多津美中学校			社会
総社市立総社中央小学校			
赤磐市立高陽中学校			数学
岡山市立大元小学校			
倉敷市立庄小学校			理科
岡山市立津島小学校			
岡山市立岡輝中学校			音楽
岡山市立桑田中学校			
倉敷市立倉敷第一中学校			美術
岡山市立岡南小学校			
倉敷市立庄中学校			保体
岡山市立牧石小学校			
岡山市立操山中学校			家政
岡山市立京山中学校			
総社市立総社西中学校			技術
岡山市立伊島小学校			
岡山市立岡北中学校			英語
岡山県立岡山支援学校			
岡山県立岡山東支援学校			特支
岡山市立伊島幼稚園			
岡山市立御野幼稚園			幼児
赤磐市立山陽小学校			
赤磐市立山陽西小学校			養護

教職実践インターンシップ学校園配当一覧(H27年度)

校種	地域	学校園	年度	学部講座															
				合計	教育	心理	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	家政	技術	英語	幼児	特支	養護
小学校	岡山	御野	H27	13				<u>7</u>	3										3
		牧石	H27	13	9									<u>2</u>					2
		津島	H27	14		9						<u>3</u>							2
		伊島	H27	15					5				2			<u>5</u>			3
		宇野	H27	13			<u>5</u>	6											2
		三勲	H27	13			<u>8</u>											4	1
		清輝	H27	12	<u>10</u>														2
		岡南	H27	13					3					<u>7</u>					3
		鹿田	H27	15		<u>10</u>										3			2
		大元	H27	14							<u>11</u>								3
	倉敷	西阿知	H27	6		<u>3</u>			1							1	1		
		庄	H27	4			3			<u>1</u>									
		帯江	H27	5	<u>3</u>			2											
	総社	総社中央	H27	4	1	2			<u>1</u>										
赤磐	山陽	H27	7		3								1					<u>3</u>	
	山陽西	H27	5	1						2								<u>2</u>	
中学校	岡山	岡北	H27	12					3		2		3	1		<u>3</u>			
		京山	H27	14			4			5		2			<u>3</u>				
		操山	H27	13					5				3	<u>2</u>		3			
		岡輝	H27	13				6	2	3	<u>2</u>								
		桑田	H27	13			3	4				<u>2</u>	4						
	倉敷	倉敷第一	H27	4								<u>2</u>				2			
		庄	H27	3			2						<u>1</u>						
		多津美	H27	3				<u>1</u>		1								1	
	総社	総社西	H27	4							1		1		<u>2</u>				
	赤磐	高陽	H27	8				1	<u>1</u>	1		1				2		2	
幼稚園	伊島	H27	8													<u>8</u>			
	御野	H27	7												<u>7</u>				
特支	岡山支援	H27	8														<u>8</u>		
	岡山東支援	H27	6														<u>6</u>		
合計		H27	282	24	27	25	27	24	24	8	9	20	5	6	19	15	18	31	

注)表中のアンダーラインは各学校園の担当講座を表す。

2.2. 平成27年度 教職実践インターンシップ訪問指導

各協力校の教職実践インターンシップ担当教員は、5月のインターンシップ開始時期と、担当の協力校でのインターンシップが終了する時期の2回を必須として、複数回の訪問を行う。インターンシップ実施期間中も、大学での教職実践演習における指導や個別に必要な指導や相談が行なえる体制を作っている。

教職実践インターンシップ担当教員以外にも、コーディネーター教員がすべての協力校を巡回訪問して、学校での聞き取りやインターンシップ学生に必要な指導・相談を行い、円滑なインターンシップの実施を行うことができるようにしている(以下の訪問指導記録を参照)。

平成27年度教職実践インターンシップ訪問指導記録(コーディネーター教員)

1 訪問校での聞き取り内容

- (1) 学校長か教頭に学生の取組の様子と問題点等について
- (2) 配当学級に行って、担任から学生の取組について
- (3) 学生から、学級や子供の様子、取組等について

2 訪問日及び訪問校園

- ・ 5月11日(月) 岡山市・・・伊島幼、津島小、伊島小、岡北中、京山中、桑田中
- ・ 5月13日(水) 岡山市・・・御野幼、御野小、清輝小、岡南小、岡輝中、岡山支援
倉敷市・・・西阿知小、庄小、帯江小、倉敷第一中、庄中、多津美中
- ・ 5月14日(木) 岡山市・・・牧石小、宇野小、三勲小、鹿田小、大元小、操山中
- ・ 5月20日(水) 総社市・・・総社中央小、総社西中
赤磐市・・・山陽小、山陽西小、高陽中
岡山市・・・岡山東支援
- ・ 5月21日(木) 岡山市・・・鹿田小
- ・ 5月22日(金) 岡山市・・・伊島幼
- ・ 6月1日(月) 岡山市・・・牧石小
赤磐市・・・山陽小、山陽西小
- ・ 6月4日(木) 岡山市・・・岡南小、清輝小、岡輝中
- ・ 6月11日(木) 岡山市・・・操山中、岡北中
- ・ 6月15日(月) 岡山市・・・御野小、津島小
- ・ 6月18日(木) 岡山市・・・伊島小
- ・ 6月22日(月) 岡山市・・・岡輝中、京山中
- ・ 6月25日(木) 岡山市・・・宇野小、三勲小
- ・ 7月2日(木) 総社市・・・総社中央小、総社西中
- ・ 7月6日(月) 岡山市・・・大元小
- ・ 7月13日(月) 倉敷市・・・帯江小、西阿知小、庄小、多津美中、倉敷第一中
- ・ 7月15日(水) 岡山市・・・御野幼、御野小、三勲小
- ・ 9月2日(水) 岡山市・・・岡南小
倉敷市・・・西阿知小

- ・ 9月 3日（木） 岡山市・・・伊島小、津島小
倉敷市・・・庄中
- ・ 9月 4日（金） 岡山市・・・三勲小
- ・ 9月 9日（水） 総社市・・・総社中央小
- ・ 9月10日（木） 岡山市・・・御野小、伊島小
- ・ 9月17日（木） 岡山市・・・清輝小
- ・ 9月24日（木） 岡山市・・・大元小、鹿田小
- ・ 9月25日（金） 岡山市・・・牧石小、宇野小
- ・ 10月 2日（金） 倉敷市・・・西阿知小
- ・ 10月 7日（水） 岡山市・・・三勲小
- ・ 10月16日（金） 岡山市・・・津島小、清輝小
- ・ 10月21日（水） 岡山市・・・清輝小、岡南小
- ・ 10月26日（月） 岡山市教委、岡山県教委、赤磐市教委（本年度のお礼と来年度のお願い、
成果と課題、要望や改善点等について）
- ・ 10月29日（木） インターンシップ協力校に、次年度に向けての意見や感想を聴取。
- ・ 10月30日（金） 同上
- ・ 11月 2日（月） 同上
- ・ 11月 5日（木） 岡山市・・・牧石小
- ・ 11月 9日（月） 総社市教委、倉敷市教委（本年度のお礼と来年度のお願い、成果と課題、
要望や改善点等について）
- ・ 11月12日（木） 岡山市・・・大元小
- ・ 11月24日（火） 倉敷市・・・帯江小
- ・ 11月27日（金） 倉敷市・・・西阿知小
- ・ 11月30日（月） 岡山市・・・岡山支援
- ・ 12月 4日（金） 岡山市・・・清輝小
- ・ 12月 7日（月） 岡山市・・・三勲小
- ・ 12月 8日（火） 岡山市・・・宇野小
- ・ 12月15日（火） 岡山市・・・鹿田小
- ・ 12月16日（水） 岡山市・・・三勲小

3 インターンシップ専門委員会・・・年7回

2.3. 平成27年度 教職実践インターンシップ反省会

すべての学生を対象とした必修科目である教職実践インターンシップⅠ、選択科目である教職実践インターンシップⅡが終了する12月に、反省会を実施している。出席者は、教職実践インターンシップ協力校、協力校園を管轄する教育委員会及び岡山大学関係委員等である。反省会では、インターンシップ生の活動状況及び次年度に向けた改善点について協議するとともに、インターンシップ全般に関する忌憚のない意見や要望を確認している。

本年度の反省会で配布された資料等の一部を以下に示す。

平成27年度

岡山大学教育学部
教職実践インターンシップ反省会

期 日：平成27年12月10日（木）

岡 山 大 学 教 育 学 部

平成27年度 岡山大学教職実践インターンシップ反省会
出席者名簿

校種等	職名	出席者氏名
岡山市教育委員会	岡山市教育委員会審議監（代理）課長補佐	
倉敷市教育委員会	倉敷市教育委員会学事課長（代理）学事主任	
総社市教育委員会	総社市教育委員会学校教育課長（代理）主幹	
赤磐市教育委員会	赤磐市教育委員会学校教育課長（代理）主幹	
小学校	岡山市立御野小学校校長	
	岡山市立牧石小学校校長	
	岡山市立津島小学校校長	
	岡山市立伊島小学校校長（代理）教諭	
	岡山市立宇野小学校校長（代理）教頭	
	岡山市立三勲小学校校長（代理）教頭	
	岡山市立清輝小学校校長（代理）教頭	
	岡山市立岡南小学校校長（代理）教頭	
	岡山市立鹿田小学校校長	
	岡山市立大元小学校校長	
	倉敷市立西阿知小学校校長	
	倉敷市立庄小学校校長（代理）教頭	
	倉敷市立帯江小学校校長（代理）指導教諭	
	総社市立総社中央小学校校長（代理）教頭	
	赤磐市立山陽小学校校長（代理）教頭	
赤磐市立山陽西小学校校長		
中学校	岡山市立岡北中学校校長	
	岡山市立京山中学校校長	
	岡山市立操山中学校校長	
	岡山市立岡輝中学校校長	
	岡山市立桑田中学校校長（代理）副校長	
	倉敷市立倉敷第一中学校校長	
	倉敷市立庄中学校校長（代理）教頭	
	倉敷市立多津美中学校校長	
	赤磐市立高陽中学校校長（代理）教頭	
幼稚園	岡山市立伊島幼稚園長	
	岡山市立御野幼稚園長	
特別支援学校	岡山県立岡山支援学校校長（代理）教諭	
	岡山県立岡山東支援学校校長（代理）副校長	
岡山大学	教育学部 学部長	
	教育学部 副学部長	
	教育実地委員長	
	教職実践インターンシップ専門委員会委員長	
	教職実践インターンシップ専門委員会副委員長	
	教職実践インターンシップ専門委員会委員	
	教職実践インターンシップ専門委員会委員	
	教職実践インターンシップ専門委員会委員	
	教育学部 教授	
	教育学部 教授	
	教育学系事務部 事務長	

反省会次第

日時 平成27年12月10日(木) 10:00～11:30
場所 岡山大学教育学部 本館4階 第一会議室
(岡山市北区津島中3丁目1-1)

1. 開 会

2. 挨拶

高塚 成 信

岡山大学教育学部長

藤原 陽 子

岡山市教育委員会事務局指導課課長補佐

3. 出席者紹介

4. 協議事項

(1) 平成27年度教職実践インターンシップの反省

(2) 今後の教職実践インターンシップの在り方について

(3) その他

5. 挨拶

仲 矢 明 孝

岡山大学教育学部副学部長

6. 閉 会

(資料1)

平成27年度 岡山大学教育学部 教職実践インターンシップ反省会

日時:平成27年12月10日(木)10:00～11:30

場所:教育学部 本館4階 第1会議室

1 平成27年度「教職実践インターンシップ」の基本体制

1.1 目的

教職実践インターンシップは、「**教職実践演習**」設定の趣旨「教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認」に基づき、教育実践力を構成する「**4つの力**」(学習指導力・生徒指導力・コーディネート力・マネジメント力)の形成状況を確認し、苦手分野の克服及び得意分野の伸張を図る。大学で実施される「**教職実践演習**」と関連させながら、学校現場での**フィールドワーク**として行われるものである。教育現場での教育活動全般に取り組む中で、自己課題の確認、及び課題解決の方法等について学ぶものである。

1.2 期間

<長期分散型>

- ① 教職実践インターンシップ I (前期必修):1単位
 - ・第1回:5月11日(月)～5月15日(金)の1日(終日)
 - ・第2回目以降:4時間以上を8回以上、6週以上
 - ・合計 9回以上、7週以上、40時間以上
 - 各自の計画に基づいて実施 →「活動計画表」
- ② 教職実践インターンシップ II (後期選択):1単位
 - ・期間:10月～12月
 - ・4時間以上を週1回程度、同じ協力校園で長期間実施

1.3 協力校園

○小学校(16校166人)

- ・岡山市10校:御野小学校・牧石小学校・津島小学校・伊島小学校・宇野小学校・清輝小学校
三勲小学校・岡南小学校・鹿田小学校・大元小学校
- ・倉敷市3校:西阿知小学校・庄小学校・帯江小学校
- ・総社市1校:総社中央小学校
- ・赤磐市2校:山陽小学校・山陽西小学校

○中学校(10校87人)

- ・岡山市5校:岡北中学校・京山中学校・操山中学校・岡輝中学校・桑田中学校
- ・倉敷市3校:倉敷第一中学校・庄中学校・多津美中学校
- ・総社市1校:総社西中学校
- ・赤磐市1校:高陽中学校

○幼稚園(2園15人)岡山市2園:伊島幼稚園・御野幼稚園

○特別支援学校(2校14人)岡山市2校:岡山県立岡山支援学校・岡山県立岡山東支援学校(肢体)

1.4 主な活動内容

- ・自己課題に関わる内容を中心とした「**教育活動全般**」（実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等）である。実地授業をする場合、学生が授業計画や準備等に主体的に取り組み、協力学校園教員の了解を得て実施するとともに、共同立案授業も可とする。なお、児童生徒理解に基づいたより実践的な学級経営、生徒指導、授業の在り方等を学ぶため、**学級配当**を原則とする。
- ・帰宅後、体験内容及び感想等を「**日誌**」に記入する。

1.5 実施までの諸手続、流れ（平成27年度）

① 教職実践インターンシップ：3年次生説明会（平成26年12月17日）
「希望地域に関する調書」（12月末）、「履修調書」（平成27年1月末）



② 配当学校：学生に通知（平成27年2月18日）



③ 「履修者名簿*」「履修調書」：各教育委員会、協力校園に送付（2月中旬）

↓* 実施人数変動の可能性（休学・退学・留学等）あり、正確な名簿は4月上旬

④ 教職実践インターンシップ：新4年次生オリエンテーション（4月7日）
「活動日に関する調書」（4月10日まで）



⑤ 活動日に関する調書の送付*（4月中旬）
協力校園に、各学生の調書（活動可能曜日・時間帯・活動不可の時期等）を送付し、
各学生の受け入れ可能曜日・時間・配当学級等を決定して本学部に連絡して頂くよう依頼

↓* 今年度は、5月中の活動予定のみを依頼

⑥ 教職実践インターンシップ：4年次生「事前指導」（4月22日）



⑦ 教職実践インターンシップ：協力校園「打合せ」（5月7日）



⑧ 教職実践インターンシップ：活動開始
（第1回：5月11日～5月15日）



※ 教職実践インターンシップ：6月以降の予定については、学生が各個人で協力校園と調整し、学生代表がとりまとめ、活動計画一覧表を教務学生係に提出

2. 「教職実践インターンシップ」活動状況と来年度の予定

2.1 活動時間数の確認

- ① 大学側で用意した名札(出勤簿)に、実習担当者により押印
- ② 指導教員が「時間数確認表」にて確認

2.2 本年度前期の結果

(1) 履修者:282人

(2) 活動時間数(40時間以上必要)

- ・40時間～59時間:251人
- ・60時間～79時間: 27人
- ・80時間以上 : 4人

(3) 活動期間

- ・標準的な期間(5月～7月)で終了の学生:80%(「活動計画表」による)(282人中227人)

2.3 「教職実践インターンシップ II」

(1) 活動期間:10月～12月

(2) 履修者:22人

- ・岡山市立宇野小学校:1人
- ・岡山市立大元小学校:3人
- ・岡山市立三勲小学校:3人
- ・岡山市立鹿田小学校:1人
- ・岡山市立清輝小学校:2人
- ・岡山市立津島小学校:2人
- ・岡山市立牧石小学校:1人
- ・倉敷市立帯江小学校:1人
- ・倉敷市立西阿知小学校:4人
- ・倉敷市立倉敷第一中学校:2人
- ・総社市立総社中央小学校:1人
- ・岡山県立岡山支援学校:1人

2.4 来年度の予定

(1) 活動期間:5月～7月(一部9月)

(2) 活動時間・回数

- ・第1回:8時間を1回

(平成28年5月16日(月)～5月20日(金) ※5月18日(水)を除く)

- ・第2回目以降:4時間以上を8回以上、6週以上

合計 9回以上、7週以上、40時間以上

※インターンシップIIの履修登録者で、インターンシップIの活動時間数が40時間を超えている場合→40時間を超えた時間数は、インターンシップIIの時間数としてカウント

(資料3)

平成28年度 教職実践演習・教職実践インターンシップ 日程（予定）

	年	月	日	曜	限	内容	形態	担当者
①	27年	12月	16日	水	5	・オリエンテーション1：「教職実践演習」の位置づけ、意義の説明 ・「教育実践力」力量形成状況の確認（自己評価・相互評価）、自己教育課題の設定作業 ・「教職実践ポートフォリオ（Web版）」入力依頼	全体	畑
						・教職実践インターンシップ説明会・希望調査		
②	28	4月	6日	水	7	・オリエンテーション2：「教職実践演習」について再度説明（日程、クラス分け・担当教員、使用教室、評価方法等の説明、ポートフォリオ入力再依頼、欠席日調査、クラス別での活動内容説明） ・「生徒指導力」の観点について	全体	畑
					8	・「コーディネート力」の観点について		安藤（美） 住野
③	28	4月	13日	水	7	・「学習指導力」の観点について ・「マネジメント力」の観点について	全体	尾島 金川
					8	・教職実践インターンシップへ向けた自己課題の検討		
④	28	4月	20日	水	7・8	・ワークショップ型討論（自己課題の再検討及び分析と決定）	クラス	講座
4月27日（水）						・教職実践インターンシップⅠ 事前指導日		
5月16日（月）～5月20日（金）						・教職実践インターンシップⅠ 初回実習期間 ※5/18は副実習（小・中）事前指導日		
⑤	28	5月	25日	水	7・8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議（学習指導力）	クラス	講座
⑥	28	6月	22日	水	7・8	・教職実践インターンシップに基づくグループ発表（学習指導力）	クラス	講座
⑦	28	7月	6日	水	7・8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議 （生徒指導力・コーディネート力）	クラス	配当校別 担当者
⑧	28	7月	20日	水	7・8	・教職実践インターンシップに基づくグループ発表 （生徒指導力・コーディネート力）	クラス	配当校別 担当者
⑨	28	10月	19日	水	7・8	・「教師力」について（学校が求める教師力、教師を目指すにあたり心がけること、教師の魅力とは何かなど）	全体	岡山県教育庁
⑩	28	10月	26日	水	7・8	・個別課題研究討議Ⅰ	クラス	講座
⑪	28	11月	2日	水	7・8	・教職実践インターンシップに基づくグループ協議と発表（マネジメント力）	クラス	配当校別 担当者
⑫	28	11月	30日	水	7	・初任期教員のリーダーとしての資質	全体	金川
					8	・教職初期のキャリア形成の実際		現職教職院生
⑬	28	12月	7日	水	7・8	・個別課題研究討議Ⅱ	クラス	講座
⑭	28	12月	14日	水	7	・「教育実践力」力量形成状況の評価について	全体	未定
					8	・ワークショップ型討論（自己の力量形成状況の把握と評価）		講座
⑮	29年	1月	11日	水	7・8	・「教育実践力」力量形成状況の自己評価レポート作成	クラス	講座

(資料4)

<シラバス>

授業科目	教職実践インターンシップ I	単位数	1
履修時期 (曜日・ 時限)	前期 (随時)	他学部学生の 履修の可否	否
対象学生	4年次		
<p>授業の概要 「教職実践演習」のフィールドワークとして実施するものであり、「教職実践ポートフォリオ」等によって確認した実践的指導力に関わる自己課題を自覚し、実践的、主体的に教職実践に取り組む。</p>			
<p>学習目標 「教職実践演習」と関連させながら、教育実践力を構成する4つの力（「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」）をバランスよく形成しているかどうかを最終的に確認し、教育現場で求められる実践的指導力を身につけることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部における事前指導 ・各学校園で第1回目に行われる配当学生全員で行われる終日活動 全体説明・参観・参画・個別相談等 ・各自の計画によって行われる半日8回の体験活動 (上記と合わせて計9回) <p>毎週1回、半日程度活動することを標準とするが、具体的な時間数については、配当学校園との相談により調整を図る。各学校園において、学生各自の自己課題を踏まえ、教育活動全般に取り組む。具体的内容としては、実地授業、授業補助、授業準備・片付け、児童生徒対応、給食指導、学級活動に関する指導、部活指導、下校指導等である。また、2回目以降の具体的日時は、学校園及び学生各自の都合により決定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日誌の記入 毎回、主な活動内容、省察等を記入する。 ・指導教員、並びに、学部における配当学校園ごとの指導 			
<p>受講要件 教育実習Ⅲの単位修得済みであること。</p>			
<p>テキスト等 なし。</p>			
<p>評価 意欲及び実践的な活動 90%、提出物 10%による総合評価。</p>			